

技術情報カード

No.134

平成23年5月

URL:<http://www.green.pref.tokushima.jp/shinrin/index.htm>



●●●●●
技術情報カード No.134
平成23年5月

徳島県立農林水産総合技術支援センター
森林林業研究所

〒770-0045
徳島市南庄町5丁目69
TEL 088-632-4237
FAX 088-632-6447



ハチ刺されの予防と救急措置

はじめに

日本では、ハチに刺されて死亡する事故が、毎年約30件発生するとともに、多くの人たちがハチに刺されて危険な状況に遭っています。山で働く人は、ハチに接触する機会が多いことから、ハチ刺されによる災害の予防対策と刺されたときの応急措置についての知識を持っていることが必要です。

また、近年、国有林において実験的扱いとして、職員を対象に実施されていた自己注射器が輸入承認されたことに伴い、一般においても自己注射器の使用を踏まえたハチ刺され災害防止対策が可能になりました。

ここでは、山で働く方を対象にした「ハチ刺されの予防」と蜂毒の初期症状を軽減する「エビベン自己注射剤」を紹介します。

蜂刺されの予防策

ここでは、初めから巣の存在を知っている場合とそうでない場合の予防策について、説明します。

①巣の存在を知っている場合

- ・春に巣を見つけたら早めに取り除く。
スズメバチやアシナガバチの場合、春先に女王が1頭で巣を作っているうちは危険がほとんどないので破壊する処置をしておいたほうが良いと思われます。
- ・巣に気づいたら、側へよらないこと。
ハチは種類によって攻撃性に著しい差があります。一般にどのスズメバチも、巣が大きくなるほど、攻撃性は高まります。
- ・ハチは巣に対する振動をごくわずかでもキャッチして警戒します。



アシナガバチ
活動時期7月～8月
体長20～26mm



スズメバチ
活動時期7月～10月
体長30～40mm

・ハチの近くでは作業をしないようにします。

出入口のハチはたえず付近の様子をうかがっていますので、巣の付近では、作業などによって手足の屈伸や体全体を急激に動かすようなことは、絶対に避けます。

②巣の存在が分からない場合

・着衣に注意

黒いものはなるべく身につけない。出来るだけ、白色系の着衣をまとい、やむをえないときは、黄色などの明るい色の服装とします。オオスズメバチなどは、黒色の長靴をはいている時、巣を刺激すると、足許へ集中して襲って来ます。

・防蜂網の着用

これは森林管理署によっては着用を奨励しており、各地で独自に試作、改良も行われています。夏季の暑い時に、作業能率の点で多少の難はあるが、ハチの攻撃部位が頭部や顔面に多いことから効果は高いようです。

エピペン自己注射製剤

ハチ刺されによる人体への影響は、ひとにより様々ですが、一般に刺される回数が増えると症状が重くなり、ハチアレルギーの方は、手当が遅れると命に関わる場合があります。

ハチ刺されが、へびに噛まれるより恐れられるのは、即時におこる全身症状です。軽い症状として、顔が赤くなったり、全身がかゆくなってきたり、症状が重い場合は、呼吸困難や意識がなくなったりして一刻を争って救急処置をとらなくてはならない。この一番重い状態をアナフィラキシーショックといいます。

近年、ハチ毒によるアナフィラキシーショックの初期治療に対して、エピネフリン製剤であるエピペンが症状を軽減する救急治療薬として、有効であることが知られていて、最近日本でも携帯出来るよう

になりました。

エピペンの特徴は、注射針が内蔵されていて、注射針が露出していないため投与前に針が見えず、利用者には不安感、恐怖感を持たせない配慮がなされています。さらに、薬液が充填されているため、アンプルからすくい取る必要がなく、コンパクトで即使用可能状態になっています。衣服の上からでも注射可能であるため、緊急用にふさわしくなっています。なおエピペンはアナフィラキシー症状発症時に患者自身が使用エピネフリンの自己注射製剤であり、事前に登録された医療機関での処方が必要です。



おわりに

課題として、使用有効期限は約1年と短くなっていますが、小型で荷物にならないエピペン、これからの季節いざというときには大いに役立ちます。備えてみてはいかがでしょうか。

【参考文献】

蜂刺されの予防と治療（林業・木材製造業労働災害防止協会編）

◆内容に関するお問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター森林林業研究所
高度専門技術支援担当 橋本 光宏
TEL 088-632-4237 FAX 088-632-6447